

事後評価報告書（日中（MOST）研究交流「気候変動」）

1. 研究課題名：「三峡ダム貯水過程における領域気候効果に関する日中研究交流」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：東京大学 大気海洋研究所 教授 佐藤 正樹

2-2. 中国側研究代表者：国家気候中心 気候評価室 准教授 チャン センエン

3. 総合評価：（ B ）

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

本課題の研究交流を通じ、中国三峡ダム（TGR）領域の観測データが取得できたこと、またそれらのデータを基に、当該領域の気候変動の把握と領域予測が可能であることが示唆されたことは評価できる。領域気候モデルによる研究成果が、TGR 領域のダムの貯水過程の理解への程度貢献できるかについての定量的検討、考察があればよりインパクトの強い成果となった。

(2) 交流成果の評価について

日本側と中国側を合わせ、延べ出張日数が約 100 人・日と数多くの交流を精力的に実施することにより、幅広い人的ネットワークの構築と相互理解ができたことは評価できる。また、最終年度に日中間のミーティングを開催できなかったことは残念ではあるが、適宜 e-mail 等で積極的に研究交流を図ったことは良かった。今後、日中双方の若手研究者による共同のモデル開発への発展を期待したい。

(3) その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）

日本側より関連する論文や学会発表が数多く行われているが、日中研究者による共著論文が発表されなかったことは残念である。また、ワークショップ、セミナー、シンポジウムなどの開催をもう少し増やしても良かったのではないと思われる。一方、今回の研究交流で入手可能になった観測データ等の公開を含め、今後のさらなる展開に期待したい。